

令和 6 年 4 月 19 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

研究コース
B グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
732665

代表者	校園名 :	大阪市立墨江丘中学校
	校園長名 :	進藤 文代
	電話 :	06-6674-3612
	事務職員名 :	颶田 涼介
申請者	校園名 :	大阪市立墨江丘中学校
	職名・名前 :	指導教諭 田中 大雅
	電話 :	06-6674-3612

## 令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	<b>これからの時代に求められる資質・能力を育成するための社会科学習指導の研究 －社会形成力の系統的育成－</b>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項目として記載してください。</p> <p>1. 社会形成力に注目し、知識だけではなく社会科で育成すべき資質・能力を明らかにしたい。</p> <p>2. 社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の系統的な育成方法から、各時間の問い合わせや資料、学習活動を明らかにしたい。</p> <p>3. 探究としての学びになるような単元開発を行い、学習のレリバランス（有意性）を意識した単元開発を明らかにする</p> <p>4. 社会形成力の評価方法として、ペーパーテストの変革だけでなく、ワークシートの記述やグループでの話し合い、発表・作品の評価方法を明らかにしたい。</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>1. 社会科で育成すべき資質・能力を明らかにする これからの時代を生きる力として、資質・能力社会科の性格が内容（コンテンツ）の重視から資質・能力（コンピテンシー）の重視へ大きく転換している。しかし社会科の授業実践は、旧態依然として知識の習得に重点を置いていた。子どもから暗記教科として嫌われる教科から脱却するために、社会形成力に注目し、知識だけではなく社会科で育成すべき資質・能力を明らかにしたい。</p> <p>2. 社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の系統的な育成方法を明らかにする 習得した知識を「知っている」だけでなく、「わかる」「使える」段階まで引き上げるために、社会科のカリキュラム・単元・各時間における問い合わせを明確にし、育成すべきスキルを検討する必要がある。「なぜ～？」の考察を促す問い合わせ、「どうしたら～？」の構想を促す問い合わせを単元を貫く問い合わせを中心に、各時間の問い合わせや資料、学習活動を明らかにしたい。</p> <p>3. 学習のレリバランス（有意性）を意識した単元開発を明らかにする 子どもが社会科の学びが自分にとって意味があると実感できることとともに、将来の市民・職業人としての生活にも関わっていると感じられることは、学びの意欲に影響する。そのため、授業における問い合わせが子どもたちに切実性があり、扱う資料が子どもたちの常識を揺さぶるようなものになる必要がある。探究としての学びになるような単元開発を行い、子どもが学びのレリバランスを高めたい。</p> <p>4. 社会形成力の評価方法を明らかにする これまでの社会科評価は、ペーパーテストで事実的知識の習得を測ることに偏っていた。概念的知識や思考力を測る問題の作成が課題となっている。またペーパーテストの変革だけでなく、ワークシートの記述やグループでの話し合い、発表・作品の評価方法を明らかにしたい。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>6月 【研究会①】        ・研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果、年間計画について検討する。        ・社会科で育成すべき資質・能力について、先行研究をもとに検討する。        ・生徒アンケート（市民リテラシー調査）・教員アンケートを作成する。</p> <p>7月 【研究授業①】 2年歴史的分野 研究授業と研究協議        【研究会②】        ・生徒アンケート（市民リテラシー調査）・教員アンケートの実施・分析        ・社会科指導案検討（歴史的分野）指導助言 四天王寺大学講師 西口 卓磨</p> <p>8月 【研修会】        「社会科における社会形成力育成の理論と方法」 講師 大阪教育大学教授 峯 明秀</p> <p>【研究会③】社会科指導案検討（公民的分野）</p> <p>9月 【研究授業②】 3年公民的分野 研究授業と研究協議</p> <p>【研究会④】社会科指導案検討（地理的分野）</p> <p>10月 【研究会⑤】学会発表内容検討 指導助言 龍谷大学教授 中本 和彦        【「全国社会科教育学会研究大会（鹿児島大学）」参加】        【「全国中学校社会科教育研究会（北海道）」参加】</p> <p>11月 【研究会⑥】        ・社会科指導案検討（公民的分野）指導助言 四天王寺大学講師 西口 卓磨</p> <p>12月 【研究授業③（がんばる先生支援 研究発表会）】        ・3年公民的分野 公開授業・研究協議 指導助言 大阪教育大学教授 峯 明秀</p> <p>1月 【研究授業④】        ・2年地理的分野 研究授業と研究協議 指導助言 四天王寺大学講師 西口 卓磨</p> <p>【研究会⑦】生徒アンケートの実施・分析</p> <p>2月 【研究会⑧】        ・教員アンケートの実施・分析        ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月 【研究会⑨】次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p>
		<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国社会科教育学会研究大会（鹿児島大学）参加</li> <li>・授業研究会の指導助言 講師：四天王寺大学 西口卓磨講師 年3回実施 講師：龍谷大学 教授 年1回実施 講師：大阪教育大学 峯明秀教授 年2回実施</li> </ul>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">理由</span></p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>学習教材に関する研究を進めることにより、社会科で育成すべきスキルの系統性を明らかにする。</p> <p>《検証方法》        学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「主体的に学習に取り組む態度」に関わる項目で5ポイント上昇させる</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>「なぜ～？」の考察を促す問いや、「どうしたら～？」の構想を促す問い合わせを単元を貫く問い合わせを中心に、社会科3分野の単元構造図を作成する。</p> <p>《検証方法》        学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「思考・判断・表現」に関わる項目で5ポイント上昇させる</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>授業における問い合わせ子どもたちに切実性があり、扱う資料が子どもたちの常識を揺さぶるために、探究としての学びになるような単元開発を行い、子どもが学びのレリバンスを高める。</p> <p>『検証方法』      学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「技能」に関わる項目で5ポイント上昇させる。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="476 1130 1584 1207"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 12 月 5 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立墨江丘中学校</td> </tr> </table> <p>◆waku<sup>×2</sup>.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="476 1311 1091 1388"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 2 月 21 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 6 年 12 月 5 日	場所	大阪市立墨江丘中学校	日程	令和 7 年 2 月 21 日
日程	令和 6 年 12 月 5 日	場所	大阪市立墨江丘中学校					
日程	令和 7 年 2 月 21 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する      社会形能力に注目した学習のレリバンス（有意性）を意識した単元開発を推進することは、次世代の学力獲得に大変有意義であると考える。全国の研究会に参加し、先進的な取り組みを学び研鑽を積み、その成果をアウトプットしながら学校間連携した教材改廃に取り組み、子どもたちが社会科の学びが自分にとって意味があると実感する将来の市民・職業人として資質・能力の育成を図る探求型学習の研究を進めるこことを期待する。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						